

第12講 文化・芸術

読解演習

解答

問一 真似する

問二 不自由・使いやすい・手を省く

問三 イ

問四 例昔の人が味わった不自由を、自ら創り出したから。(二十三字)

問五 無駄の効用

問六 ア

問七 技術の上に「か」している

問八 イ

問九 ウ

解説

問一 「伝統を生かす」とは、本来、奥の深い行動であると思われる。しかし、近頃は「ひどく手軽に」いわれ、どういう行動となってしまうているのかを確かむ。

問二 ——線②のすぐ後に、「その原因がどこにあるかといえは」とあるから、その後から読み取る。

問三 ア 「発見したのは、もしかすると、昔どおりの糊^{のり}ではないかも知れない」とあるから、不適切。

イ 「使いにくい糊で、…彼の技術には合っており」とあるので不適切。

ウ 「昔どおりではないが、彼の技術に合った」までは本文と合っているが、「使いやすい」が不適切。

エ 「よくのびる糊は、細い線も自由に引けるが、力が入らないので、かわいものになってしまう」という考えで作った糊だから「あえて使いにくく」したといえる。また、「彼の技術には合っており」と本文にあるから、これが正解。

問四 ——線④の次の文を簡潔にして、二十五字以内で解答する。「なぜか」という問いであるから、文末は「～から。」などとする。

問五 「手がかる」ことをするのは、「不必要ともいえるが、相応の効果を期待している」ということである。それを表した五字の表現を探す。

問六 「返す言葉もない」の後に「他人には真似^{まね}られないよさがある」「無駄の効用を彼ほどわかまえている人はない」などであり、職人としての信念が良い作品を生んでいることを、筆者が肯定的に評価していることから考える。

問七 前の段落全体を指しているが、その中から「～人」につながる部分を探す。

問八 「手は口ほど自由に物がいいないこと」の「手」とは、「職人としての腕前」を表している。ことわざ「目は口ほどに物をいう」をもじった表現。大きな夢を抱いた際、口で語ることが簡単であるが、技術を用いて形として実現させることは非常に難しい為、多くを語らず、技術を磨くことを心がけているということ。

問九 ア 本文中に「斬新な工夫」が必要だとは述べられていない。また「新しいものを創造する」ことにも触れていない。

イ 「職人の心をしっかりと受け継ぎ」はよいが、本文中に「今までにない技術を開発する」とは述べられていないから、不適切。

ウ 「技術と精神を共に受け継ぎ」は「技術と仕事を楽しむ伝統を生かす」という内容と合っている。これが正解。

エ 「頑固に守り通していく」とあるが、昔のように「不自由な糊」を自ら研究し、新たに作っていることから、不適切。